

教育シンポジウム開催 (2010年7月31日)



平成22年7月31日(土)、須磨キャンパスで教育シンポジウムが開催されました。この催しは、本学園の60年余に亘る教員養成の伝統を引き継ぎ、更なる発展を目指して教職に就いている多くの卒業生との相互交流推進を図ることを目的に立ち上げた学園創立70周年記念事業『教職卒業生ネットワーク』の一つとして開かれたものです。

本学の卒業生で教職に就き活躍している方や兵庫県・神戸市の教育委員会からシンポジストをお招きし、最初に行吉 誠之理事長、波田 重熙学長から挨拶があった後、出席いただいたシンポジストから体験に基づく様々なお話を伺いました。

就職時の苦労話、採用試験に向けての心構えや勉強法、教員を目指す学生への熱いメッセージ等、また教育委員会からは教育界の現状や課題、全体的なアドバイス等非常に有意義で役に立つ情報を得ることができたようです。

シンポジウム終了後には、卒業生と現役学生、出席者との交流会も開催され、和やかに意見交換が行われました。



国際学術シンポジウムが開かれる (2010年11月6日)



K.スアスティカ教授の講演

平成22年11月6日(土)午後1時から、神戸女子大学ポートアイランドキャンパスにおいて、学園創立70周年記念事業のひとつとして国際学術シンポジウムが開催されました。

はじめに行吉 誠之理事長からシンポジウム開催にあたり挨拶があり、神戸女子短期大学副学長 浅木森 和夫教授の司会進行で会が始まりました。

このシンポジウムは、「健康に生きるしあわせ、食べるよろこび — 神戸から世界へ健康ネットワーク —」をテーマに、特別記念講演では順天堂大学大学院の大津 一義教授から「実践から始める糖尿病など生活習慣病におけるライフスキル」について、興味深いお話をいただきました。

続くパネルディスカッションでは、本学健康福祉学部長 梶原 苗美教授と大和生活習慣病研究所 谷口 洋所長(本学客員教授)をコーディネーターとして、インドネシアから招聘した本学の提携校であるウダヤナ大学医学部長のK.スアスティカ教授にご出席いただき、インターネット回線でインドネシアのウダヤナ大学とも直接結んで、会議が行われました。その中で、最近の糖尿病などの生活習慣病やメタボリックシンドロームの「世界の現状と対策」について、谷口所長やスアスティカ教授から詳しく説明されました。

茨木市保健医療センターの深尾 篤嗣所長から「行動変容と“健康に生きるしあわせ、食べるよろこび”」についてのお話の後、食べるよろこび — 血糖が気になる人のための美味しいヘルシースイーツの提案 — が神戸『食と健康』研究会ヘルシーメニュー開



スアスティカご夫妻と出席者

発チームの本学健康福祉学部岡田 祐季助手からなされ、株式会社宗家源吉兆庵の協力により試作された和菓子を会場の参加者全員で試食しました。

この後、本学文学部 安原 順子准教授が、「神戸女子大学国際交流事業の紹介 インターネットを介した語学研修」と題して、本学と海外の大学との双方向授業の内容について紹介し、最後に波田 重熙学長から英語でお礼の挨拶があり、シンポジウムが滞りなく終了しました。



波田学長の挨拶

創立70周年記念式典を挙行政 (2010年11月11日)

学校法人行吉学園は、平成22年11月11日(木)に創立70周年を迎え、晩秋の好天気に恵まれたなかで、ホテルオークラ神戸 平安の間に於いて記念式典が挙行政されました。井戸 敏三兵庫県知事、中村 三郎神戸市副市長を始め300名以上のご来賓の方々にご列席賜り、卒業生や旧教職員も含め約600名の出席者で盛大に開催されました。

当日は式典に先立ち学園の永年勤続表彰式が行われ、35年以上勤続者6名、25年以上勤続者40名に表彰状と記念品が行吉 誠之理事長から贈呈され、永年勤続者に対する祝辞が述べられました。受賞者を代表して、神戸女子大学文学部の齋山 美津子教授から入職当時の懐かしい思い出話をおりまぜてお礼の挨拶がありました。

引き続き記念式典では、行吉理事長式辞のあと、井戸知事、中村副市長、大学コンソーシアムひょうご神戸の理事長校である関西学院大学浅野考平副学長から祝辞を賜りました。



行吉理事長 式辞

祝電が高木 義明文部科学大臣を始め各界から多数届けられ、一部が披露された後、神戸女子大学同窓会 青山会 額額 好子会長、神戸女子短期大学同窓会「かなめ会」藤井 昭子会長からそれぞれ記念品が行吉理事長に贈呈されて、閉式となりました。

この後祝賀会へと移り、冒頭に映像による「学校法人行吉学園70年、そして未来」が上映され、波田 重熙学長から開会挨拶の後、来賓を代表して兵庫医療大学学長 松田 暉様に乾杯のご発声をいただき、開宴となりました。今日までの行吉学園70年の歴史を振り返りながら懐かしい話題で大いに盛り上がり、関係者・教職員一同今後に向けて決意を新たに、行吉 宜孝理事の閉会挨拶で懇親の宴は無事に幕を閉じました。



波田学長 祝賀会開会挨拶

服飾教育にみる行吉学園の70年「ファッションショー」華やかに開催 (2010年11月28日)

平成22年11月28日(日)、六甲アイランド(神戸市東灘区)の神戸ファッション美術館オルビスホールにおいて、「ファッションショー」が開催されました。学園70年の歴史を振り返り、「一 過去を憶い……未来を想う」をテーマに、3部構成のショーが、一般市民や卒業生等約350名の前で華やかに繰り広げられ、モデルは全員神戸女子大学・神戸女子短期大学の学生がつとめました。

第1部は、「学園の歴史とともに」で、学園所蔵作品の中から、洋裁熱の高かった昭和30~40年代の作品と平成4年にポートアイランドへ学舎を移転した記念として開かれたファッションショーの作品を紹介しました。

第2部では、「銘仙きものNI恋する乙女たち」と題して、大正から昭和30年代まで、主に普段着として着用されていたカラフルで斬新な模様の銘仙を、着こなしを含めて研究し、その結果と現代的コーディネートを中国からの留学生とともに発表しました。

第3部のテーマは「未来予想図」で、日本の四季にはそれぞれの思いがあり、様々なファッションを楽しむために作られた衣服が披露されました。過去から現在、そして未来を夢見て、憧れのウェディングドレスに身を包み、時代とともに移り変わるドレスのファッションを皆様に見ていただきました。学園創立70周年記念事業の締めくくりとして、新装式(行吉式)洋裁と服飾教育の歴史を冊子にまとめ発刊できたことや本学の服飾のあゆみを「ファッションショー」形式で紹介できたのは、非常に有意義なことでした。

